シドニーの暮らし



2026

オーストラリア留学
シドニー ７月



CAGE EGGS
（ケージ）



FREE RANGE EGGS
（外と行き来自由）



BARN LAID EGGS
（完全放し飼い）



鳩農場で実際に
放し飼いされていた鶏。

（自由度）

有機・ウェルフェア志向の台頭

イギリスでも感じたが、スーパーでは有機農法や動物福祉に配慮した商品が次々と商品棚に並び、かつ売れ筋が良いように感じた。

実際に、卵も上記の３段階に分けて売られていた。

研修先の鳩農場でも、完全放し飼いで鶏が飼養されていた。やはり放し飼いのものは需要が絶えないらしい。

また、当たり前のように規格外野菜の安売りコーナーが設置されていて、環境への配慮がしっかりされていると感じた。

日本では、案外進んでいないところは進んでいないので、こういった部分は海外の方が先進的かもしれない。



スーパーの一角の、
常設コーナーのような
規格外野菜売り場。

https://www.ucon-i.jp/global-training/abroadreports/

シドニーの動物たち



研修先の農場のほかに、タロンガ動物園、子ども向けの観光農場へ行くことが叶った。

各々の施設でそれぞれの特色に応じた動物との向き合い方がされていた。





農業を教育へ！観光農場の取り組み

自分が農場を訪れた日もまた、小学生あるいは幼稚園生が農園を訪問し見学し回っていた。

子ヤギや小羊を見てはしゃいで喜んだり、むちの音を上手く鳴らす講座を受けたりと、全体的に楽しんでいそうだった。

結局のところあらゆる探究心は「かわいい」「少し好きかも」といった、身近に思える気持ちから始まるものかもしれないと思った。



酪農場での業務

搾乳業務をさせていただいた。牛たちの座る位置や牛舎の構造、放牧である点は日本のものと異なるポイントだが、ミルカーは特に日本での仕組みと変わらず使用していった。

繁殖は、特別な理由がない限りは胚移植は行われていなかった。日本ほど酪肉連携の必要性がないことや充分に広い土地があることが要因として挙げられると予測する。

地域特有の種との向き合い方

タロンガ動物園にはコアラやエキドナ、タスマニアンデビルといった地域固有の種が豊富に展示されていた。これらの動物と子どもの頃から接点を持っておくとともに、環境保全や動物愛護といった観点を養い、探究心に繋げていくのだと思った。

地域に根差した学習も大切だと感じた。

雄大な自然の中で

自然豊かな地へ出ると、まるで取り囲む環境すべてが学ぶための教材かのように見えてくるほど鮮やかな毎日になった。

Australian Maritime Museum

ここではオーストラリアにおける航海および潜水の歴史が紐解かれていった。ロンドンでも同じような施設へ訪れたが相当国によって内容が異なったため、歴史も含めた潜水、水圧、気象などの理科の学習に繋げられると思った。やはり実物を見るのと教科書のみで学習するのとでは高揚感が違うと感じた。





理科で習ったシダ植物のことが英語でそのまま説明してあり高揚した。

Royal Botanical Garden

オーストラリアは動物だけでなく植物までも固有の生態系が確立している。日本では見られない動植物が多く見られた。

ここでは、様々なオーストラリアならではの植物が説明付きで楽しめたので大変勉強になった。

個人的な勉強だけでなく、授業をするなら植生や遷移といった分野にも結び付けられそうだと思った。

生物は教科書の中でなく、自然の中にあるのだなということを改めて感じた。



鳥に擬態する植物であるゴクラクチョウカ。
特有の生態系が楽しめた。

最後に

私は畜産を学ぶという観点と、教育を学ぶという観点でオーストラリアで学習や研修を重ねてきましたが、教師目線で物事を見ているうちに、自分もまた善き大人たちに恵まれて思い切り学ぶことを許されている非常に恵まれた存在であることをますます自覚していきました。未来の生徒にとって何が良き教材かを探していたものの、それら全てが私にとっても良き教材であることにも気づき、ここまで沢山の学びを持ち帰ることが出来幸せだと感じました。ご支援いただいた方々には感謝の念に堪えません。この学びを本レポートのみならず様々な形で発信していき石川により今後貢献していけたらと思います。



イギリスの化学博物館で自分の研究分野についての展示を読む私